

目次

序文	1
第1部	
第1章 「ネイチャーライティング」の定義・起源・系譜・特徴	11
第2章 ネイチャーライティングとしてのポスト3・11 原発文学 —くま・馬・ヒグマが呈示した黙示録—	27
第3章 ネイチャーライティングとしての石牟礼道子『苦海浄土』 (第1部)の読み—故郷との対話を中心に—	47
第4章 ネイチャーライティングとしての石牟礼道子『苦海浄土』 (第2部)の読み—故郷との対話を中心に—	73
第5章 ネイチャーライティングとしての石牟礼道子『苦海浄土』 (第3部)の読み—近代という魔性との格闘と第三項認識 の可能性—	83

第 2 部

第 1 章 「エコクリティシズム」の由来・定義・援用について	99
第 2 章 エコロジー理論から見る日本伝統的食文化「うなぎ」 —3・11 の啓発による自然との調和を目指して—	107
第 3 章 エコクリティシズムから見た多和田葉子の書くことの「倫理」—「不死の島」と「献灯使」との連続性・断絶性—	123
第 4 章 エコクリティシズムから読むポスト 3・11 文学作品 —多和田葉子『献灯使』を中心に—	137
第 5 章 エコクリティシズムから読む有吉佐和子『複合汚染』	159
結語	173
テキスト(年代順)	184
参考文献(年代順)	185
初出一覧	194